

高校3年生に「大学合格体験記」 を書いてもらうという試み

—山田明彦さん（愛知）の「ウソの作文」（1990年）を応用してみたら—

信州・上田仮説サークル やなぎさわかつひろ 柳沢克央

2017年6月9日（金）

katsu-y@coral.plala.or.jp

◆このレポートの要旨

『たのしい授業プラン国語』（仮説社・1990年）で山田明彦さんが「ウソの作文」の実践報告を行っています。この応用編として2017年5月下旬、主として大学受験を希望している篠ノ井高校生たちに仮想の「合格体験記」を書いてもらいました。対象は篠ノ井高校3年生理系3講座94名の生徒たちです。2年生1クラス40名に対しても同様に実施しました。

生徒たち一人ひとりに今後の勉強への取り組み方などを深く考えてもらうことができ、大いに手応えを感じました。また、書いてもらったあとの感想（あとがき）などから、この試みは生徒たちに私の予想以上に歓迎されたことがわかりました。

このレポートでは3年生に対して実施した結果について報告します。

◆「ヒョウタンから出た駒」＝「うそから出たまこと」

この春、息子が高校3年生になりました。いよいよ受験勉強が本格化します。世の

中、何でも予約する時代です。そろそろ学資の心配もしなければなりません。大学での勉強に奨学金が必要な場合には、夏休み前に奨学金を「予約」するための書類を書いて、提出しなければなりません。さあ、準備をしなくては…そんなことを考え始めていた5月のある日、息子と話をしていたら、勢い余って自分でも驚くような言葉を言っていました。「〇〇君、いまから〔合格体験記〕を書いておいたらどうだい?」。息子は「ああ…、う～ん…」と何とも気の入らない返事です。それはそうでしょう。いくらなんでも唐突すぎます!

しかし、言ってしまってから、「これは本当に面白いのではないかな?」と思いはじめました。合格していなくても、合格した人の気持ちになって書くというのは「先取り」になるし、受験のことを真剣に考える良い機会になるのではないのでしょうか。

部活動の地区大会が終わって、引退する生徒が出てきた篠ノ井高校の3年生たちに、仮想の「合格体験記」を書いてもらうことにしました。

◆「合格体験記」執筆要領（実物はA4判手書き）

次の要領で「合格体験記」を書いてみよう。

0. 題をつける。特に良い題を思いつかなかったら「合格体験記」でよい。

1. まえがき……どのような目的で本文を書くか、を書く。

（例）「合格できた自分」を設定し、その視点から見た「これからの自分」のとるべき方法を想像（創造）するため。

2. 本文………次の3つの方法が考えられる。必要なら、組み合わせるとよい。

（ア）実物の合格体験記を読み、よく味わった上でオリジナルの文章を書く。

（イ）あえて合格体験記は読まずに、完全に自分が持っている材料のみで書く。

（ウ）実物の合格体験記をそのまま丸写しする。

3. あとがき……書きながら考えたこと、書いた後で思ったことを書く。

（補足）

1. 志望校（または就職先など）が決まっていない者は、仮に志望校（または就職先など）を設定して、それについて書くこと。

2. 「創造は想像から始まる」〔流音弥氏^{ながれおとや}（1967～ ）の言葉〕

3. 「できると思うにせよ、できないと思うにせよ、そのとおりになる」 “Whether you think you can or think you can’ t, you’ re right. ”〔ヘンリー・フォード（米国・1863～1947）の言葉〕

以上 2017. 5. 25（木）柳沢克央メモ

◆実施方法

○5月下旬の一学期中間考査終了直後、テスト返却の時間の後半とその次の化学の授業時間を使って実施しました。

○合格体験記の見本は中部大学春日丘高等学校のホームページに掲載されているものをA3判両面印刷5枚分（体験記38名分）を各生徒に配布しました（実施してみて、見本はこの半分ぐらいの分量で十分かもしれないという感触を得ました）。

○執筆要領を音読して全員に説明し、大まかな構成のメモを作ってから書き始めるように指示しました。次の授業（55分）の最後に提出してもらうこと（宿題とはしないこと、また、早く書き終わった者は化学の自習をするよう指示しました）（作文に要する時間は2コマにわたって合計80分程度です）。

○原稿用紙は篠ノ井高校国語科にあった800字詰め（25字×32行）原稿用紙をB4判両面印刷して配布しました（生徒たちの作品のほとんどが700字～1400字の範囲に収まりました）。

○篠ノ井高校の生徒たちはとても真剣に取り組んでくれました。

◆謝辞

合格体験記の見本には、インターネットで公開されている中部大学春日丘高等学校「平成28年度 進路の手引き —Ambitious—」（http://www.haruhigaoka.ed.jp/senior/experience_note/）を使わせていただきました。ここに記して敬意と感謝とを表します。

次に作品やその一部を抜粋したものを紹介します。(下線は柳沢)

◆作文とコメントの例1

○(仮)「合格体験記」(A・Aさん)

○まえがき…今まで部活ばかりで勉強にまったく力を入れていなかった私が、部活を引退してから受験に向けて勉強をどんな方法でやっていくべきなのかを考えるため。

○本文…一つ目、授業に集中すること。授業でやったことを忘れないよう、その日のうちに復習すること。授業で分からなかったところをそのままにしない。

二つ目、苦手教科・苦手分野を克服すること。苦手だからと言って先延ばしにするのは良くない。苦手を苦手と思わず、こつこつ毎日やっていくこと。

三つ目、苦手を克服するだけでなく、得意分野も伸ばしていくこと。得意分野を一つでも作ることでそれが確実な得点源になり、大きな武器になる。

四つ目、模試の結果で一喜一憂しないこと。模試はあくまで力試しと入試の練習であって、本番は入試であるということを忘れない。模試で悪くて落ち込んでいる暇はない。良い結果が出ても本番で同じようにできなければ意味がない。模試の結果を見て次につなげる勉強をすること。

五つ目、モチベーションを保つこと。勉強していく中で不安や葛藤があると思うが、友だちと支え合ったり、先生に相談したりして乗り越えていくこと。モチベーションが下がったときは、志望校のホームページやパンフレットなどを見て、大学生活を想像することもいい。勉強してきたことが自信につながるよう、最後まで諦めずにがんばること。

六つ目、自分を信じること。これから先、成績が伸びなかったり、下がったりして悩むことがあっても「もうだめだ」と思っ**てはいけない**。どんなことがあっても自分を信じ、コツコツと努力すること。

○あとがき…私は実物の大学合格体験記を読んで実際に「合格体験記」を書いてみて、これらのことがとても大事だな**あと**と思い、自分もこうやって勉強していきたいなあと**思いました**。受験まであつという間だ**と**思います。後悔しないように、最後の最後まで頑張り**たい**です。

●柳沢のコメント…A・Aさんの体験記では「まえがき」、「本文」、「あとがき」の形式が指示通りにしっかりと書けている点が素晴らしいです。本文の内容も堂々としていて具体的でとても良いです。あとは現実化するという作業を着実に進めることが大切だと思います。希望が実現することを願っています。

◆例2

○「合格体験記」(M・Rさん)

○まえがき…まだ合格していないのに合格体験記を書くのは変な感じがしますが、合格から逆算して今、何をすべきかを考えたり、合格した自分を想像してモチベーションを上げるために書きます。

○本文…まず、私が受験を意識し始めたのは高三の五月下旬です。それまでは本当に勉強をしていませんでした。ごくまれにやる気が出たときは80~90点台を取ったりしていましたが、やらないときは全くやらないので一桁も珍しくはありませんでした(笑)。(柳沢注：作者のM・Rさんは一学期中間考査で化学の点数が一桁でした)とにかくやる時とやらない時の差がすごかったです。そのため、全くわからないところがところが多く、一から学び直すことが多かったのも、とても苦労しました。授業をしっかりと聴き、復習することは本当に大切です。

次に、私の勉強法について書きたいと思います。私は友だちと勉強すると、つい話しかけたくなくなってしまっ集中できないタイプだったので、勉強するときは一人でするようにしていました。英単語や古典単語など、暗記系のものは参考書を持ち歩き、すき間時間に覚えるようにしていました。単語を覚えるのには、まとまった時間を取らなくても、すき間時間を使えばけっこう覚えられます。まとまった時間をとって勉強する時は、軽く何の教科をどれくらいやるか計画を立ててからやっていました。ずっと同じ教科を勉強していると疲れるので、疲れたら教科を変えて気分転換していました。勉強する場所は家が多かったです。

次に、受験の天王山と言われる夏についてですが、私はひたすら基礎を勉強しました。5月から8月でしっかりと基礎を固め、9月から10月には応用問題を解きまくり、11月からは時間配分を考えて赤本(大学別入試過去問題集)を解き、実践力を身につけました。志望校の赤本が手元にあるとモチベーションが上がります。私は早めに志

望校の赤本を買ったのですが、基礎が身につけていないと当然、解けないので、早く基礎を固めよう！と思い、夏はがんばれました。特に、夏休みにがんばれるかどうかはとても大きいと思います。

最後に、私が受験の一番の敵だと思っていたスマートフォンについてですが、上手に使えると意外と使えます。勉強でわからないところを調べたりできたし、勉強がいやになった時は志望校の大学祭の動画を見てモチベーションを上げたりしていました。ただ、やりすぎると本当に時間がなくなるので、メリハリをつけて使うことが大切です。Instagramなどの娯楽はやるべきことが終わったら息抜きで少し見る程度にしていました。

進路が決まった人が出てきてからは辛くなるのでリアアカはログアウトしました(笑)。とにかく、ストレスをためないことが本当に大切だと思います。自分に合うやり方を見つけ、自分の未来のためにがんばって下さい。応援しています。

○あとがき…合格体験記を書いてみて、合格する自分が想像できたし、合格までの見通しを持つことができたのでよかったです。合格した気持ちになれて楽しかったし、がんばろうと思えました。今の自分が後輩へのアドバイスのことを書くのはどうかと思ったけど、割とそれっぽくなったので良かったのかなと思います。もう合格する気しかしません。

●柳沢のコメント…M・Rさんは「合格体験記」を書いてもらうという私の意図を十二分に理解して傑作を書いてくれました。すき間時間の使い方、夏休みの過ごし方、スマホとの付き合い方、後輩へのエール、どれもリアリティがあり、素晴らしいと思いました。あとがきもうれしく読ませてもらいました。実現がすぐ手の届くところにあるのがわかるような気がします。GOOD LUCK!!

◆例3

○「合格体験記」(D・Hさん)

○まえがき…全く勉強をしない自分への戒めとして、先輩たちの合格体験記を読む。そして「こうなりたい」という理想の姿を想像する。勉強意欲が刺激されるかも。

○本文…そろそろ時効だと思うのでバラしてしまうと、私は高校3年生の5月まで全く勉強していませんでした。もちろん、宿題とか定期テストの勉強はある程度してい

ましたが、受験のことはピンとこなくて、勉強するにも何をしてもよいかわかりませんでした。

そんな私でも勉強を始めたとき、受験勉強の中でいちばん気にかけていたことは、効率よく色々な教科を勉強することです。受験は総合力で決まります。どの科目もバランスよく勉強するようにはしていましたが、受験は必要な知識がかなり多いうえ、時間に限りがあります。無駄の多い勉強では間に合いません。なので勉強法を逐一見直しながら効率アップさせていきました。

たとえば、私の場合は、苦手な科目ばかりに目を向けないということです。そればかりしてしまうと、得意教科がおろそかになりがちです。得意な教科こそ勉強するようにはしました。すき間の時間を使ったりすると得意なことは頭に入ってくるので、効率もより Good です。

また、集中力をどのように維持するかも効率の良さに含まれます。集中できていない状態で勉強を続けても意味がないからです。勉強するときにはいつも全力で取り組むように心掛けました。

次に大切だと思ったことは、基礎をおろそかにしては高得点は望めないということです。センター試験はほとんどが基礎の基礎とも言える問題で構成されているからです。

センター試験を甘く見て、失敗して、ボーダーに届かなくて志望校を下げるというのは、はっきり言って減茶苦茶かつこわるいです。基礎は大事。授業で課される課題はきちんとやって、授業の復習はしっかりやって下さい。予習は余裕がないならしなくてもいいと思います。でも、復習は大事。

最後に気をつけてもらいたいことは、勉強する意欲がわかないときはどうするべきか、ということです。人の言いなりにならないために、自分の言動の意味、勉強する意味を考えておくことが大事です。

ここまで長々と書いてしまいましたが、受験勉強はどんなに辛いことがあっても必ず終わります。そしてその終わり方はそれまでの自分次第です。がんばった人には達成感を、頑張りきれなかった人には反省を与えてくれます。最後の最後まで全力を尽くして、後悔よりも達成感の多い受験にしてほしいと思います。

○あとがき…今回のテストが返ってきて本気でまずいと思いました。その後にごうし

て合格体験記を書くことは若干の抵抗感と勉強を全くしなかった後ろめたさで、辛いものがありました。

でも先輩たちの体験記を読むことで、得たこともあります。まず、みんな「勉強しなきゃ！」と思い始めるのが高2の時ということです。さっきまで私はそんなこと全く考えていなくて、かなり遅れをとっているということを自覚しました。まずいと思います。あと、やっぱり基礎が大事だということです。二次試験には応用問題が出ますが、何よりもまず基礎ができていないと何もできないらしいです。がんばって基礎から勉強しようと思いました。

●柳沢のコメント…Dさんは先輩たちの合格体験記を読むことで、たくさんの大切なことに気づくことができました。「まえがき」「本文」「あとがき」という形式にしたがって書いてくれました。基礎が大切であることに気づいてくれました。現状の厳しさを自覚することで、これからどのように行動したらよいかわかってくれたようです。今後ますます努力して進路実現できるように願っています。

◆例4

○「合格体験記」(S・Nさん)

○まえがき…○合格のためにこれから何をすべきかということを考えることと、すべきことをやりきった先には明るい未来があると前向きになるためにこの文章を書きます。

○本文…私は一年生の段階ですでに志望校が概ね決まっていた。でも私は、未だ大丈夫、まだもう少し余裕がある…と思って勉強することを先延ばしにしてしまい、結局、受験勉強を始めたのは三年の五月末（ほぼ六月）でした。一般的にこれはとても遅いと言われます。自分でも何でもここまでやらなかったのだと悔やみました。でも、悔やんでもどうしようもないので、とりあえず勉強を始めました。

まず最初に、私は何から始めればよいのかわからなかった。苦手な教科の復習と英単語、古文単語の習得に励みました。復習は一、二年生の時のテストを解き直し、わからなかった問題は教科書を読んで理解するようにしました。それでもわからないものは先生や友だちにきき、しっかり解けるようにしました。苦手な教科も解けるようになると、すごく楽しくなるので、勉強のやる気が上がりました。そこそこ解ける

ようになったら、得意教科、普通教科にとりかかりました。得意教科、普通教科はそ
の中での苦手な分野を消化するようにしました。勉強の成果はいきなりは出ませんで
したが、コツコツとやっているのと点数も伸びていきました。結果的に合格できたのは、
ぜんぜん点数があがらなくてもあきらめずにやり通せたからだとは思います。全く
手が出ないような問題を投げ出さずにひたむきにがんばったからだと思います。あき
らめずに努力を続ければ絶対うまくいくと思います。苦しくても辛くてもがんばって
下さい。

○あとがき…自分で自分にエールを送っている気持ちになりました。「苦手な教科も楽
しくなる」と書いたときに、「本当にそうだよな、楽しいと思えるようになろう」と思
いました。これから辛いと思うけど、絶対あきらめません！

●柳沢のコメント…Sさんは三部構成で体験記をまとめてくれました。書くための目
的が明確であり、本文は主として自分自身の考えを中心にして展開してあります。受
験勉強を始めてから成果が出てくるまではふつう、三カ月くらいかかると言われてい
ます。苦手な教科の勉強をするときはなかなか手応えが得られずに大変なこともある
と思いますが、Sさんの目標にむかってこの文章に書いてあることを毎日、着実にや
っていきましょう。

◆「まえがき」の豊富なヴァリエーション…ひとことで言うと「疑似体験」

○他の人の体験記を書き写すことで、ただ流し読みするだけでは分からない大学受験
を経験した人の意見や勉強法を学ぶため。(T・E君)

○第一志望の大学に合格できた先輩たちの合格体験記を読んで、これまでの自分と照
らし合わせて、これからどのように勉強に取り組んでいけばいいのか、受験というも
のをどのようにとらえていくべきか、改めて考えるため。(O・H君)

○今、行きたいと思っている志望校に合格するために、これから何をすればいいのか
改めて確認する。(S・Mさん)

○ぼくはいつも嫌なことを後回しにしてしまい、そのあげくどうにかなるだろうと思

ってしまい、結局やらずに終わってしまう。…それがいちばん顕著に出ているのが、勉強である。そんな「どうにかなるだろう」という妄想を現実のものにするため、合格体験記（仮）を書く。（T・T 君）

○これを書く目的は、自分は水泳部に所属していて、これからシーズンに入るところで、とても忙しく、他の人に比べると遅れてのスタートになります。なので、遅れたら遅れたなりに、夏休みをどう過ごし、二学期から本気で勉強に打ち込んでいくかを再確認するために書きます。（I・D 君）

○実物の合格体験記を読み、合格者の体験を自分に当てはめて考え、これから受験に向けて勉強面や精神面での理想の受験生像を想像し、それを目標としていくため。（K・Y 君）

○この合格体験記を書いて、これからの私の中で何かを発見できるように書き、書き終わったあと、書き終えた人にしかわからない何かを得られるようにと思いながら書きます。（U・M さん）

○合格するために何をやっていいのかわからない自分のために、まず「合格した自分」を設定し、そこから自分が何をすればいいのかわかるように明確にするため。（K・K 君）

○部活が終わり、受験勉強が本格的に始められる時だが、気持ちの切り換えがなかなかできずにいるので、合格体験記を書くことで今やるべきことを明確にする。（M・T 君）

○合格者の体験記を読み、自分が疑似体験をするため。（N・R 君）

◆いろいろな「あとがき」…感想がなかなか「深い」

○あと10カ月ぐらい先の私がこうなれたらいいなと思います。合格体験記を現実のものにしたいです。（S・N さん）

○書きながら思ったこと…合格体験記を書いてみて、自身のやるべきことや心がまえが見えてきました。見えてきたことを、現実でもできるようにして、これからの進路実現を進めていきたいです。(O・Y君)

○この人の合格体験記を書き写してみても思ったのは、受験勉強はやはりもう始まっているということです。それと、しっかり規則正しいサイクルで生活を送ることに重点を置いてこれからがんばりたいと思った。(N・M君)

○合格体験記を読んで思ったことは、合格した人はみんな受験に対する意識が高いということです。しっかりと目標を立てて、それに向かって精一杯、努力しなければ合格は叶わないんだと改めて感じました。受験まで日が少ないですが、後悔しないようにがんばりたいと思います。(I・H君)

○この方の体験記を読んだときに、部活で学んだことすべてが書き記されていると感じられました。運動部だった私が体験した、基礎や日ごろの練習を大切にすること、あきらめず部活を続けていくということ、部活をサボったり休んだりしないこと、そして最後の大会で今までの自分のがんばってきた成果が出るように、悔いの残らないように自分を信じること。部活で学んだ全てがこれからの受験に向けて必要かつ大事なんだと思いました。なので、これからは勉強に目を向けて自身で学んだことを生かしていきたいです。(S・Mさん)

○そういえばこんなふうに高校受験の勉強していたなあ…と思い出しながら書いた。やはり、自分なりの解釈や考え方を持つことが勉強の質の向上につながると思う。(T・T君)

○部活が終わってから本格的に受験勉強を始めようと思っていたが、その考えは甘いと思った。自分はまだまだ基礎が固まっていない教科がある。その教科は少しでも早く基礎を身につけなければいけないと思った。テスト前になると少しは勉強していた

が、そんなのではだめで、結果がすぐに出なかったとしても、毎日少しずつでも努力を続けなくてはいけないということがわかった。お手本にした体験記に「時間は過ぎていくだけで戻ってくることはない」とあったが、本当にその通りだと思う。今、この時が将来の自分の人生を良いものにするか、だめにしてしまうかの分かれ道なのかもしれないと思った。だから、後悔しないように時間を無駄にすることのないように大切に使っていきたい。(H・T君)

○実際に合格体験記を書いてみて、現在の自分の立場を考え、これからどのように変えていくかを考えてみるのはとても面白い感覚だった。合格体験記を読んでいても、共感できる内容がたくさんあり、とても良い時間だったと思う。(W・S君)

○焦っても仕方がないので、しっかり基礎をかためていこうと思えた。また、夏休みの時間を効率よく使って必ず1日8時間以上勉強しようとも思えた。スマホやテレビもいいが、けじめをつける大切さを改めて実感できたので良かったです。(I・D君)

○合格体験記を書いてみたり、本物の合格体験記を読んだりして、「まずいな」と思いました。今回書いたことや先輩たちの受験勉強と今の自分を比べると、ぜんぜん受験勉強をしている感じがなくなってきました。また、志望校について調べてみて、「行きたい」という気持ちは高まったけど、レベルの高さも同時に感じて、「さらにまずいな」と思いました。でも、早めに自分の今の勉強について見直すことができたのでよかったです。これから、さらにがんばっていきたいと思いました。(K・Y君)

○合格体験記を読み、書き写してみると、読むだけではわからなかった部分の理解を深められたと思います。勉強が続けられる環境を自分なりに作り上げていこうと思えました。初めに取り組むことをハッキリさせることができて良かったです。そして、それを土台として受験までの勉強に取り組んでいこうと思えました。これから数ヶ月間、頑張れそうな気がします。(I・Sさん)

○合格体験記を書いてみて、合格した自分を想像して書くことが楽しかったです。本

文にも書きましたが、やりたいことをどれも諦めたくないから、全て全力でやろうという気持ちがより強くなりました。辛いことがあったときは、合格して楽しい大学生活を過ごしている自分を想像して乗り越えていきたいです。(K・Mさん)

○合格体験記を書いてみて、正直、最初は合格もしてないのに、書けません…と書いていました。ですが、合格舎の体験記を読むのではなく、実際に手を動かして書くことで、私の言葉で書いているような気がしました。なので、私の言葉として書いているなら、うそはよくありません。この体験記のように、今の自分に最も足りていないこと、「すき間時間を有効活用」して、最終的に大きな時間となるように行動します。部活も終わった今、これから成果を挙げるには、やはりどれだけの時間を作り出し、勉強にあてることができるかだ、ということに、この体験記を書いてみて、改めて深く心に残りました。合格していないのに体験記を書くという経験はなかなかできないと思います。今、書くことができ、いい体験ができました。ありがとうございました。(U・Mさん)

○合格体験記を読んでいくと、「自分に合った勉強法を見つけろ」ということが多く書かれていた。自分は今、勉強の習慣がほとんどない。だから、今すぐ、先ほど書いたように、自分に合った勉強法を見つけたい。それと、本文には書かなかったが、問題集を何冊も用意するのではなく、自分で決めたものを少数、用意し、それらを何回も繰り返して解いた方が良いということも書いてあったので、これも実行したい。このように合格した自分を設定したことで、今まで何をやっていいのかわからずにいたが、まず何をやればいいのか明確になったので、これを書いてみて良かった。(K・K君)

○この合格体験記を読んで、自分が今、何をすべきなのかがわかりました。そして、これを書くことによって実感がわき、これから勉強をしていく意欲もわきました。最後に悔いなく終わられるように、自分の目標に向かってがんばっていきたいと思います。(K・Yさん)

○この合格体験記は、私が現在行っていること、行おうとしていること、知人からの

アドバイスをもとに書きました。書いてみて自分はここまで達成できているが、この部分の改善が必要であるとかということが明瞭になり、とても良い刺激になりました。これからの夏休みを前にした時期からが忙しくなり、正念場となるので、精一杯の努力をして、第一志望を目指して頑張っていきたいと思う。(Y・K 君)

○この合格体験記を書いてみて。自分のこれからやっていかなければならないこと、すべきことを書いた。この通りに行く気しかしない。受験をなめているわけではないが、自分は考えすぎると「負の連鎖」におちいりやすいので、明るく、気軽に構えた文章にしてみた。なんか勉強する気がわいてきた。(W・Y 君)

○少しでも良いから計画を立てて実行することが重要だと思った。計画を立てないでやみくもにやっても、かたよりが出てしまうことに気づいた。(N・R 君)

◆私の書いた「コメント」あれこれ

○N 君は「自信」が「過信」や「油断」につながる危険があることに注目しています。とても大切な視点だと思います。あとがきで「心がまえが見えてきた」と書いてくれました。あとは N 君の言っているように実行すればよいのですね。これから進路実現を進めましょう。

○OS さんは「まえがき」「本文」「あとがき」という形式に則って書いてくれました。文章の構成がすっきりしていてとても読みやすいところが素晴らしいと思いました。あとがきで部活で学んだこととお手本にした体験記の内容の共通点に気づいていることを書いてくれており、部活の素晴らしさを教えてくれています。とても重要なことだと思いました。良い結果をつかみ取ってくれることを願っています。

○OT 君は「まえがき」「本文」「あとがき」という形式にしたがって考え、そして書いてくれました。具体的な方法として問題集への取り組み方について丁寧に書いてくれました。繰り返して解くことや、なぜその答えが出るのかを考えることは確かにとても大切なことだと思いました。自分なりの解釈や考え方を持つことは何事にも大切に

す。進路の実現に生かしてくれるよう、願っています。

OK 君はまだ志望校が決まっていないとのこと。それでも「自分を客観的に見て」「完全に想像で」書いてくれました。環境を整えて、勉強の習慣を作るところはとてもありアルだな～と感心しました。自分のすべきことが実行できるようにと願っています。

OI 君は他の人とは違う事情があることを考慮した上で、自身に必要なことを意識して文章を構成することができました。少しでも早く受験勉強のスタートが切れるよう、今後も工夫と努力とを積み重ねてくれることを願っています。

OK 君は三部構成で体験記を仕上げてくださいました。自分の言葉で書かれたまえがきは、目的が明確で、素晴らしいと思いました。本文も何をどのようにするかということについての意図がはっきりと書かれていることに感心しました。あとがきでは、自身の中に起こった変化について書いてあったので、書いてもらって良かったなあと思いました。今後の取り組みに大いに期待しています。

OW 君は三部構成で、独自の考えに基づき、志望校まで細かに自分で設定したオリジナル色の強い体験記を書いてくれました。「痛快」という表現がよく似合いそうな意欲作になっていると思います。合格までの具体的なイメージができており、感心しました。順調に勉強が進み、目標が達成できるようにと願っています。

◆気をつけたこと・やってみて柳沢が感じたことなど

○篠ノ井高校の場合、3年生の5月下旬という時期は早からず、遅からずで、とても良い時期だと思いました。

○具体的な題をつけるのは難しいようでした。ほとんどの生徒の題は無題または「合格体験記」でした。

○「どうしても書けないときは、見本の文章をそのまま写せば良いんだよ」と指示しました。「ほぼ丸写し」する生徒も真剣に取り組んでいましたし、その感想も前向きなものがほとんどでした。

○「まえがき」「本文」「あとがき」の三部構成で書くように指示をしましたが、本文を書くだけで精一杯の生徒も三分の一くらいいました。原稿用紙に余裕がある場合には「まえがきがまだ書けていない人は、あとがきのあとにまえがきを考えて書いてもいいよ」と指示しました。

○体験記の字数が少ない生徒もいましたが、「もっと多く書くように」などという指示はしませんでした。

○あまりに素晴らしい作品が多かったので、一人当たり 100 字～200 字のコメントを赤ペンで書いて速やかに返却しました。生徒たちとの「心の距離」がぐ～んと近くなった気がしました。

◆「結果」はまだ出ていないけれど

予想よりもずっと積極的に取り組んでくれたので、「合格体験記」を書くという試みをしてみて、とても良かったと思います。下手な「進路講話」を聞かせるよりも数段上の「効き目」があるように感じました。しかも多くの生徒たちが「書いて良かった」、「合格体験記を書くのは楽しい」「これから何をすればいいかがわかった」と書いてくれています。

この作文を書いてもらわなかったときに比べてどのくらい有効なのかということは検証のしようがありません。ただ、受験に向けての心がまえを持ってもらうのには予想以上に効果がある方法だと感じました。「うその作文」は「合格体験記」に限らず、色々なヴァリエーションが考えられます。楽しみごとから今回の私の試みのようにかなり真剣なものまで、適用範囲は広く考えることができると思います。あなたも色々な場面で試してみて、結果を教えてくださいませんか。(了)

〔2017年6月9日(金)16:30・ガラケーが壊れ、ガラホに乗り替えた日に脱稿〕

◆追記

このレポートを2017年6月10日(土)の上田仮説サークル臨時集会で発表したところ、好評でした。プロジェクターを使ってチョークアートを描く方法と同様に「模倣と創造」の問題を考える上で興味深い「演習問題」の一つだと思っています。